

令和7年度第3回 高浜市障害者地域自立支援協議会  
本会議

会議概要

日時 令和8年2月25日(水) 13:30~15:00

場所 高浜市いきいき広場2階 いきいきホール

1 あいさつ

今年度は福祉計画作成もあり3回の開催となりました。

次年度以降の本会の取り組みにご審議いただき、次年度以降も皆様方には様々な形で地域の障害者の対応に関わっていただきたい。

2 報告

今回の議事録署名は、児玉会長と藤村委員にお願いする

(1) 部会活動について

【資料1】により以下の順に今年度の取り組みについて各部会長等から報告

- ・障がい福祉サービス事業所部会 【資料1-1】参照
- ・障がい児通所支援部会 【資料1-2】参照
- ・防災部会 【資料1-3】参照
- ・地域生活支援拠点部会 【資料1-4】参照

<部会報告に対する質問>

- ・特に出されなかった。

(2) 研修事業について

【資料2】参照 介護障がいグループから藤グループリーダーから報告

- ・今年度は3つの研修を開催した。

①問題解決しない事例検討会は、講師に日本福祉大学田中先生をお迎えた。

防災部会以外は、それぞれの事業所が抱える事例検討を行った。事例検討の理解を深めようというところで企画をした研修。

内容は、問題解決が目的ではなく、本人に対する理解を含めて仮説を立て、その人のことをもう一度捉え直すというもの。

支援者の方がその方に対して問題だと思っていることが、実際その人にとっては問題がないことがある。本人目線で困り事を考えていくことが大切だという学び。

②障がい者虐待防止研修は、講師に日本福祉大学綿先生をお迎えた。

この綿先生による虐待防止研修は3年連続で開催している研修会で、各事業所で虐待防止研修の実施が必須になっているため、自立支援協議会のこの研修を各事

業所で活用してもらっている。

研修内容は幅広く、研修ポイントで示してある事柄の他、事業所が具体的に利用可能な書式も一緒に資料としていただいた。虐待では最近問題になっているのが性的虐待であり、深掘りした説明もあり大変参考になった。

また、虐待防止以外では、福祉の在り方、業界の考え方など、グローバルな視点の必要性の学びを得た。

### ③ S S T 研修

愛知県療育等支援事業の担当である、くるみ会の梅村氏をお迎えした。

ソーシャルスキルトレーニングの基本的な考え方、実際の活用についての内容で、事例をもとに、どのようなアプローチが良いのかグループワークをした。基本的なところから応用まで幅広く教えてもらった。

- ・研修については、来年度も同じような回数を実施できたらと考えている。

<研修報告について質問>

- ・特に出されなかった。

### (3) 高浜市障がい者福祉計画等アンケートの結果について【資料3】

【資料3】によりエディケーション大野氏から報告

令和7年11月から12月にかけてアンケートを実施した。

- ・2ページ 調査対象者は身体障がい、知的障がい、精神障がいそれぞれ手帳を持っている方、障がいのある児童の場合は、通所支援のサービスを受けている方。回収結果2,218部配布のうち、回収数1,045部、回収率47.1% 調査はWeb回答を可能にした。
- ・5ページからが調査結果の概要
- ・アンケートの記入者は、身体障がい、精神障がいについてはご本人がご回答されているのが多い。知的障がいでは、ご本人は34.5%の回答で、ご家族回答が半分くらい。障がい児では親御さんの回答が9割以上。
- ・6ページ下、性別は障がいによっていろいろ違いがある。特に精神障がいでは、女性が5割以上。障がい児では男児の方が多い状況になっている。
- ・7ページ 年齢の別。身体障がいでは65歳以上の方が66.8%。知的障がいでは18～39歳の方が54.6%。精神障がいでは40歳から64歳が51.3%。
- ・8ページ 世帯類型。ここで、前回、令和元年の調査との比較を出してある。特徴的な点が身体障がいでは、一人暮らしは前回の調査で15.4%だったのが、今回22.6%で、高齢の方が多い。知的障がいでは前回調査はないが、精神障がいでは、夫婦のみの世帯が増えているという傾向が出た。
- ・18ページ 発達障がいと診断されたことがあるかという説明。障がい児の場合75.7%が発達障害の診断を受けているという結果。
- ・19ページ どういった診断名がついているのかは、自閉症スペクトラムという診断

が多くなっている。

- 32ページ 18歳以上の介助支援者について図表5-1は、誰が深い介助支援をしているかについて、身体障がいでは配偶者。知的障がいでは、親御さんが67.4%を占める。精神障がいでは、親御さんが27%、配偶者が24.5%とさほど差はない。精神障がいでは、介助者支援者がいないというのが19.6%、20%近くある。
- 33ページ 介助してる方の年齢、身体障がいの場合、70歳以上の方が介助支援しているのが42.3%を占めた。
- 34ページ 18歳未満の介助支援者ということで、いわゆるヤングケアラーの実態かも知れない。18歳未満の介助者支援者がいるかないかでは、75.9%はないと答えているが、4.4%主な介助支援者がいる。それから、4.6%は補助的な介助支援者がいると答えている。
- 35ページ ヤングケアラーと言ってしまう方がいいのだが、就学就労の状況を見たもので、学校に通っているというのは全体で40%、部分半分ぐらいが無回答。そこから考えると8割ぐらいは学校に行っている。問題なのは、学校に在籍しているが通学できていないというのが1.8%あった。人数にすると1人。
- 38ページ 日中の活動（日中の過ごし方）について、身体障がいでは、家庭内で過ごしてるが33.3%で一番高かった。知的障がいでは、就労継続支援といったような通常のサービスを利用しているのと、利用して働いているというのが28.6%。精神障がいでは、家庭内で過ごしているというのが41.2%。前回の調査に比べると、精神障がいでは、前回52.1%の方が家庭内で過ごしていると答えてたのに対して、今回は41.2%で10ポイントぐらい減ってきている現状がある。その裏返しとして、就労継続支援などのサービスを利用して働いている方が18.9%。これは前回の12.9%から上がっている。正職員として働いているといったところも7.1%が9.7%へ上がり、正職員以外として働いているも10%が12.2%に上がるなど、働く等の活動が少しずつ増えている。
- 43ページ 現在働いている方に仕事のことで困ってるかを聞いた結果、身体障がいでは5.8%、知的障がいでは2.9%だが、精神障がいでは20.8%と高くなっている。働くことを積極的にやっている方も増えてきていることで、悩みや困りごととも出てきている結果と思える。
- 44ページ どんなことに困っているか。身体障がいの場合、仕事の身体的な負担が大きく疲れるが一番多かった。知的障がいと精神障がいの場合、一番多かったのが仕事場の人間関係で、知的障がいでは25%、精神障がいでは43.9%となっていた。
- 50ページ 希望する学習の形態で、普通の学級か、特別支援学級、それとも特別支援学校かで、前回令和元年と比較をして見ると、地域の学校の通常の学級で勉強したい、もしくは特別支援学級、地域の学校で勉強したいという方が増えてきている。その代わりに、特別支援学校で勉強したいという方は減ってきている。

- 51ページ 放課後等デイサービスの利用状況。令和7年になると今通っている、もしくは通っていたという方が63.2%。これ就学の状況別で見ると、小学生は9割近くが利用している。
- 56ページ 精神科医療について、精神保健福祉手帳所持者の病名で一番多かったのが躁鬱病等の気分障害でこれが40.3%。前回令和元年が32.1%だったため、かなり高くなってきている。逆に統合失調症は前回40%だったのが今回26.9%に下がっている。
- 58ページ 実際その精神科もしくは心療内科等に通院して治療を受けているかでは、通院しているが92.9%を占めた。
- 59ページ その精神科医の入院は、43.7%の方が入院したことがある。
- 61ページ 精神科医療で困っていることは通院時間がかかり負担を感じるというのが一番高く出ている。その他、専門的な治療をしてくれる病院が近くにない、医師に病状をうまく伝えられないといったところも比較的高い数字が出ている。
- 62ページ これからの生活についてどのように過ごしたいかの住まい方については、いずれの障がいも自宅で家族と共に暮らしたいという方が多かった。特に障がい児と身体障がいのある方では60%台で多かった。知的障がいでは、仲間と一緒に食事や身の回りの世話をしてくれるグループホームなどで暮らしたいのが18.5%で比較的多い。
- 66ページ 障がい者が重度になっても地域で安心して暮らすために重要な支援は何だかという問で、地域生活支援拠点と合わせた設問にしてある。これを見ると、身体・知的・精神障がいでは、いつでも相談できる窓口が充実していると良いと答えているのが6割以上。障がい児になると、いわゆる切れ目のない支援が行われる体制整備が必要だというのが57.4%で一番高かった。
- 67ページ 身体・知的・精神障がい者で、この1年やった活動や今後したい活動については、旅行に行きたい、色々なスポーツ、映画鑑賞などで、今後もやりたいと考えられている。
- 71ページ 外出時の主な移動手段について、身体障がい者では、自分で運転する自家用車というのが43.7%で一番高い。知的・精神障がい者では、乗せてもらう・家族等に乘せてもらう自家用車というのが高くなっている。知的障がい者の方は、徒歩で移動している場合も多いし、公共交通機関もかなり使っている。
- 76ページ 身体障がい者では、自分で車を運転される方が多いため、障害者用の駐車場が少ないというのが20.1%で最も高くなっている。知的・精神障がい者では、公共交通機関を使う方が多く、バスの本数が少なくて便が悪いというのが21%。障がい児では、公共施設などのトイレが使いにくいが一番多く24.3%あった。
- 87ページ 災害について、災害時の避難が1人でできることかについて、1人でできるのは身体障がい者が36.7%、知的障がい者が16.8%、精神障がい者のあるはと37%で、障害児

だと12.5。家族の支援があればできるというのが、7割ぐらいが全てそれになる。今のところそれ家族以外の支援がないとできないは比較的少ない。ただ、障害の種類によっては家族以外の支援も必要だと出ている。

- 89ページ 災害時に困ることは、身体・知的・精神障がいが一番高かったのが障がいのある人が安心して避難できる場所、避難所が分からないということ。
- 91ページ 避難所で困ることは、安心して利用できるトイレがないこと。知的障がいでは、コミュニケーションがうまく取れないが一番高かった。精神障がいでは、プライバシーが保てないこと、必要な薬や医療が受けられないということが高かった。
- 93ページ 地域で安心して暮らすために、どんなところに相談しているかは、障害者支援センターがかなり高い率。
- 99ページ 障害があるために差別をされたり、嫌な思いをしたことがあるかという設問では、身体障がいでは12.1%がある。知的障がいは20.2%、精神障がいは31.5、障害児が30.1。精神障がいと障害児について、差別を受けた、嫌な思いをしたという回答が3割ぐらい増えた。ただ前回に比べると低くなっている
- 100ページ 未成年のきょうだいについて何か影響があるかについて、特にないが43%が一番高かった。きょうだい児は、習い事、遊び旅行など経験する機会が少ない結果になっている。親御さんは障がいのあるきょうだいにどうしても手がかかる。障がいのあるきょうだいが優先され、我慢したり孤独を感じているのではないかが28%あった。
- 116ページ 高浜市の障害者施策について、この数年で進んだ取り組みはどんなことかについては、相談窓口が充実してきているが一番高くなっている。障がいグループで一番高かったのが早期の療育が受けられるようになったである。知的障がいでは、グループホーム等居住系のサービスの充実。精神障がいでは、相談窓口の充実。障がい児は将来ということだった。

#### <調査結果についての質問>

Q :アンケートの調査に答えていただいた方は、ご家族様がメインとして障害児に関しては答えたという認識でよろしいか。

A :おっしゃる通り。6ページに記載の通り

Q :この中でヤングケアラーの部分で言うと、ご家族様がお手伝いしてもらっているとか、ヤングケアラーとしての認識ではなく、サポートしてもらってる認識で潜在的な部分があるのではないかと感じた。例えば今回のアンケートと別の形で、障害のある子供さんがいるきょうだい児が通っている教育機関等に匿名のアンケート出して、親御さんからだけでなく、きょうだい児からの意見を出してもらえるようにしてはどうか。中間という話でしたので、今後のやり方として、検討していただければありがたい。

A : 貴重な意見ありがとうございました。検討します。

<会長からコメント>

読み込んでいくと気づく点があると思うので、会議後でもお気づきの点があれば事務局へご意見をお寄せいただきたい。結果をどう計画に反省させていくかは今後。

### 3 議事

#### (1) 令和8年度の取組について

##### 【資料4】参照

来年度は部会の内容を変えた形でやっていきたいと考えている。

- ・部会としては3つの部会で、児・家族部会、防災部会、地域生活支援部会という構成としたい。
- ・これまでの部会は、事業所を主体としていたが、今年度の部会から出てきた地域の課題について、テーマを絞って部会として検討していきたい。そのため、構成員を事業所だけではなく、市の関係機関、相談支援事業所等としていきたい。
- ・お子さんと家族を含めた関係で色々な検討をするのが児・家族部会。
- ・地域生活支援拠点部会だったものは、地域生活支援部会と名称を変えている。精神障がいのある方への対応に苦慮しているという課題が多く上がったことから、この部会で吸収した形で検討していく。
- ・防災部会は変わらず続ける。
- ・ワーキンググループとして医療的ケア児のワーキンググループを立ち上げる。医療的ケア児の相談も増えており、就園・就学の対応等ある程度チームを組んで対応する必要があるため、まずは色々な部署が連携する体制を作るためにワーキンググループを設置する。年間を通じて何かをするのではなく、目的が達成されてたら解散をするような位置づけになる。
- ・従来のサービス事業所の集まりだったものは、児童に関する事業所連絡会と、障がい者に関する事業所連絡会として情報共有や困り事の抽出等をしていただきたく、自立支援協議会の中に位置づける。
- ・事務局は特に今年度とは変わらない。

<会長からコメント>

- ・部会の再編はあるが、サービス事業所の皆さんにも入っていただかないと運営がしていかせないので、サービス事業所の方はもうこの部会に入らなくていいということではなく、当然入っていただきたい。事務局側が強制で入ってくださっていいということではなく、是非、自発的にこの部会で役割を担いたいというような形で、各事業所の皆さんに判断いただいて次年度以降進めていければと思います。場合によっては、その手の上がり方を含めて事務局からご依頼の連絡も差し上げる場合もあるかと思います。

<令和8年度協議会についての質問>

委員:既に今年度の最後の部会で次年度の進め方に提案してご意見をいただいているので、部会に入っている事業所にはご理解いただいていると思う。構成メンバーの確定や、スケジュールなどコメントあればお願いしたい。

事務局:3月から協議会の構成員案を声掛けしていく予定。4月以降に集まってもらい、課題の共有。何ができるのか検討しながら組み立てる。来年度1年間で 情報共有、課題共有で何か成果を求めるものでもない。

令和8年度入って3つの部会を立ち上げ、そのあとで全体会を行う。

例年、本会議は6月開催。1回目の部会をやってから本会議には報告できる。

部会は、年4回開催を予定している。今年度中にできることもあれば、来年度中に準備することもある。立ち上げたところで議論していく。進めるところは進める。構成が変わるので、すり合わせをして進める必要はある。

委員:精神障がいのある子のケース検討は、来年度は、地域生活支援部会で課題を取り扱って、事例検討などをしていくものか。

事務局:お見込みの通り。走りながらの検討になる。ご協力をお願いしたい。より実効性のある協議会、部会としていきたい。

#### 4 その他

福祉人材確保に関するアンケート調査結果報告

日本福祉大の学生によるアンケート調査の結果が報告された。

以上